

自分自身に「金メダル」

八学短大2年生6人



メダルの型に溶かしたホワイトメタルを流し込む学生



完成したメダルを首に掛け、
笑顔を見せる学生ら

卒業控え制作、頑張ったたえ

同ゼミでは、園児と造形活動をする際の手法などを研究しており、メダル制作はその一環。八戸工業大の講師で美術家の東方悠平さん(39)が講師を務めら成形した。

八戸 八戸学院大短期大学部(杉山幸子学長 幼児保育学科の池田拓馬准教授のゼミに所属する2年生6人が卒業を控え、新型コロナウイルスの苦難に負けず、学生生活を頑張った自分自身にささげるメダル作りに取り組んだ。21日、学内で完成したメダルを首に掛けて達成感をにじませた。(佐々木美香)

ゼミ最終日の同日、低温でも融解する特殊な金属「ホワイトメタル」を溶かし、丁寧に型へ流し込んだ。ホワイトメタルの扱いに苦戦しながらも、仲間と協力してメダルを完成させ、2年間の頑張りを笑顔でたたえ合った。好きなキャラクターとピアノを組み合わせたメダルを作った古川咲良さん(20)は「短大へ。

時代にはピアノを頑張った経験を生かし、春から立派な保育園の先生になりたい」と意気込んだ。メダルは同学科棟内の「ホールギャラリー」に展示されている。併せて東方さんの作品展「H y o s h o」も開催されており、コロナ禍でのオンライン開催に関し、東方さんが感じたことを表現した作品を鑑賞できる。2月18日まで。入場無料。時間は午前10時〜午後5時。土、日曜、祝日に観覧希望の場合は連絡が必要。問い合わせは八戸学院大短期大学部大池田拓馬研究室 電話0178(30)21222へ。